

令和5年度 全国学力・学習状況調査の概要

学力調査の結果（小学校）

平均正答率

| 教科 | 国語 | 算数 |
|------|------|------|
| 藤井寺市 | 64 | 59 |
| 大阪府 | 66.0 | 62.1 |
| 全国 | 67.2 | 62.5 |

※平成29年度から市の表示は整数

※R2は新型コロナウイルス感染症の影響のため中止。

全体的な傾向

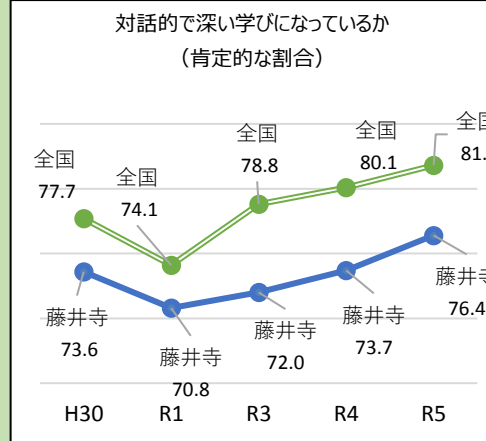
- ◆平均正答率は、国語・算数ともに全国・府平均を下回っている。
- ◆国語は、経年で改善傾向にあり、全国水準に近づいている。また、記述式問題の正答率対全国比については府を上回った。
- ◆算数は、本年度は全国との差が広がり経年で課題が見られる。
- ◆対話的な学び、ICT活用、アウトプットする力、主体的に学ぶは改善傾向。
- ◆自己肯定感・朝食の喫食率は改善傾向にある。
- ◆平日の家庭学習を全くしない児童と読書習慣は継続課題。

※H30は国語、算数のA問題、B問題の平均値で表示

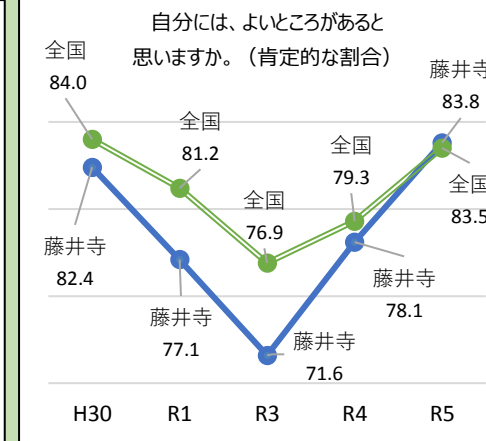
児童質問紙調査の結果（小学校）

※「ICT活用」は、R1からの調査項目

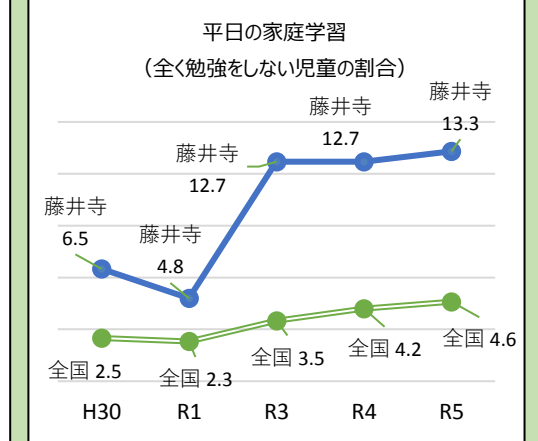
対話的な学び



自己肯定感

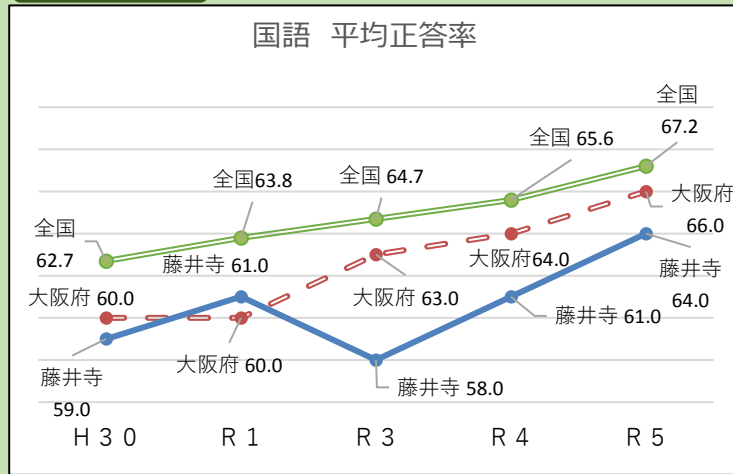


家庭学習

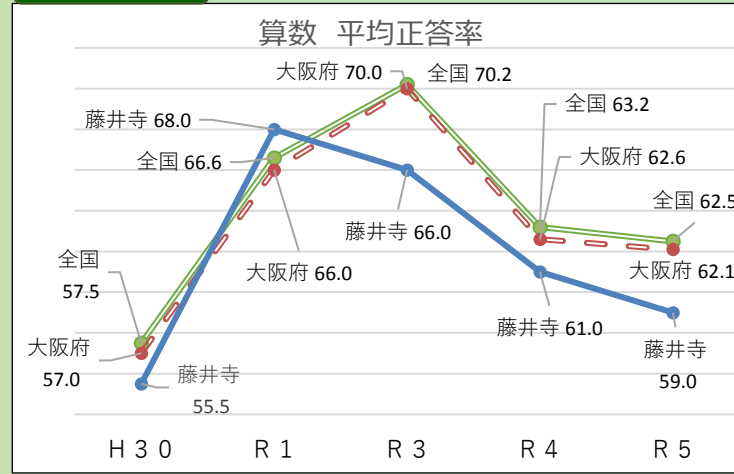


「全体の平均正答率」と「対全国との割合比較」

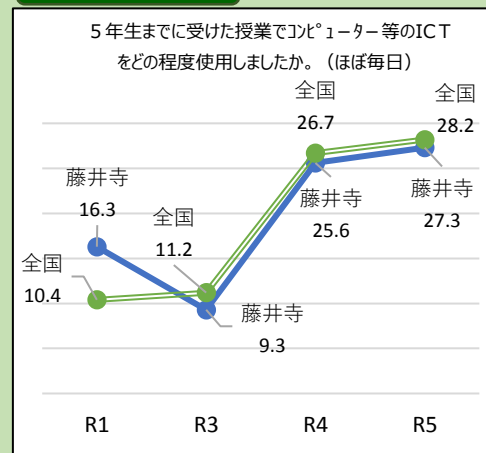
国語



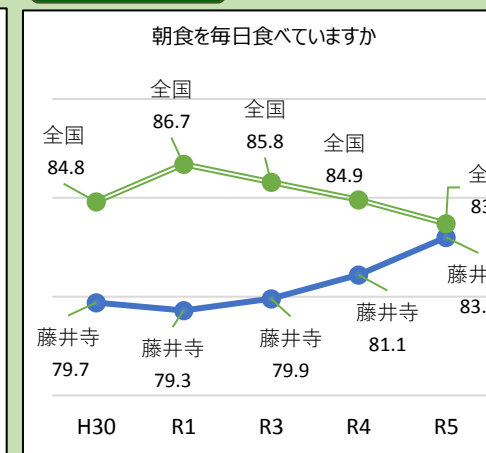
算数



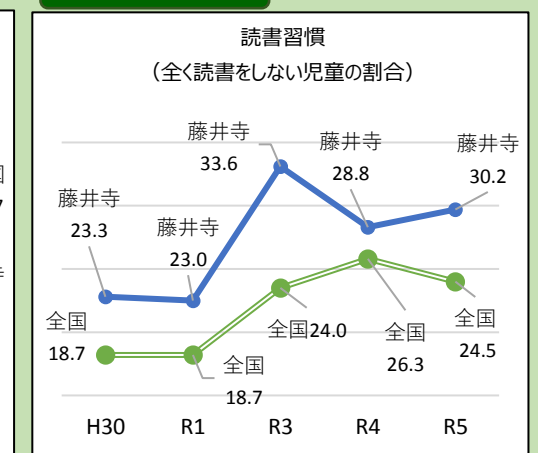
ICT活用



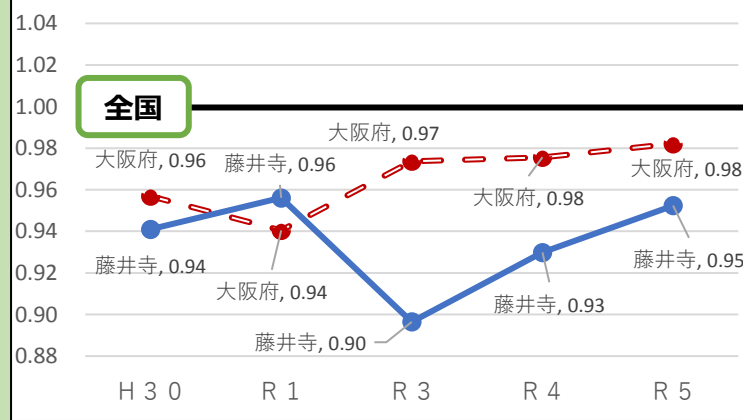
朝食



読書習慣



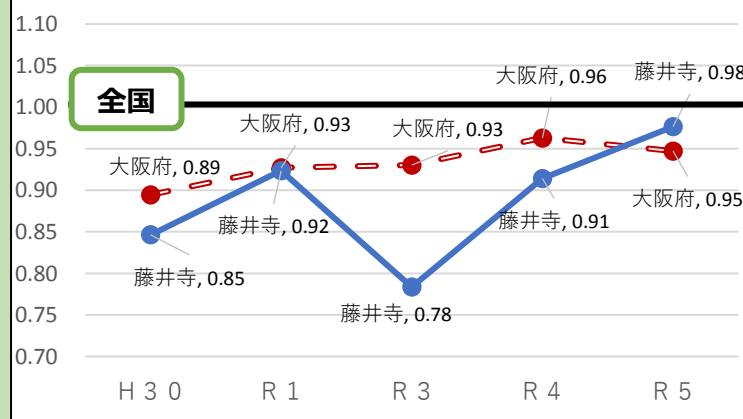
国語 対全国・大阪府の割合比較（全国1.00）



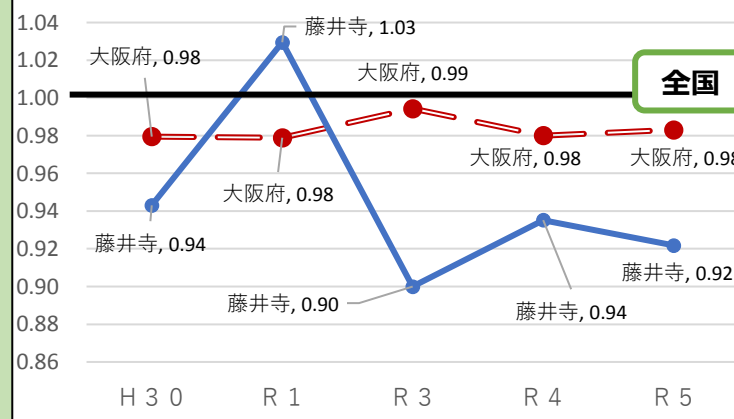
算数 対全国・大阪府の割合比較（全国1.00）



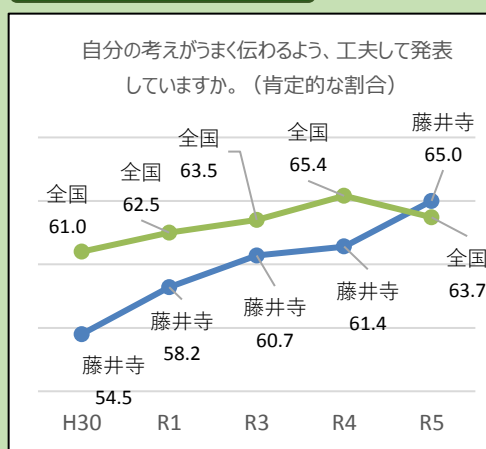
記述式問題対全国・大阪府（全国1.00）



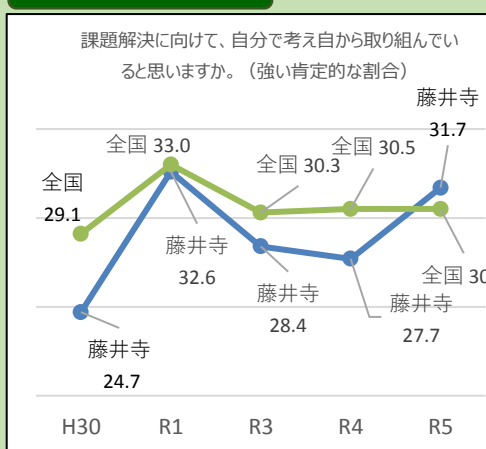
記述式問題対全国・大阪府（全国1.00）



アウトプットする力



主体的に学ぶ力



今年度の結果分析と取り組みについて

質問紙調査から、「対話的で深い学びになっているか」の項目で肯定的な回答をした児童の割合が経年で上昇しており、多くの子どもたちが授業の中で、活発な話し合い活動を通して考えを深めていると意識していることや、「ICT活用」の項目についても、「ほぼ毎日」と回答した児童の割合が上昇していることから、教員の授業改善の工夫が子どもたちに伝わっていることがわかります。その成果として、本市の学力向上施策の課題・指標としている「アウトプットする力」や「主体的に学ぶ力」については、この間改善が続き、今年度は肯定的な回答が全国を上回りました。さらに、「自己肯定感」、「朝食を毎日食べる」の項目についても改善傾向にあります。これらは、学力とも関連のある項目であり、学校と家庭の協力した取り組みの成果と言えます。

一方で、「平日に家庭学習を全くしない」児童の割合と、昨年度少し改善が見られた「読書を全くしない」児童の割合も微増しており、継続して課題がみられます。この課題解決に向けては、学校図書館の充実等を含めて、引き続き学校と家庭の協力とともに、家庭での主体的な学び方の提示方法にも工夫が必要と考えます。

今年度の取り組みは、市内3小学校を「国語の授業づくり」「学校図書館」、「学力」の大阪府モデル校として推進しています。モデル校事業は、授業改善にも大きく寄与しており、好事例を市内各校へ公開しています。また、昨年度に引き続き、今年度も、指導教諭による公開授業や研修を実施しており、市内教員の授業改善等に取り組んでいます。さらに、今年度から市内3校をモデルに高い専門性や豊富な指導経験を有する専科指導教員を市独自で配置し、課題の見られた算数を中心に、専科ならではのきめ細やかな指導を進めています。各校において今回の調査結果からみられた成果と課題をふまえた取り組みを進めるとともに、子どもたちがさらに主体的に学べる姿をめざして、その取り組みを積極的に支援していきます。